

# アフリカに生きる～ベナンの文化と暮らし～

## Bonne annee !!

おそくなりましたが、あけましておめでとうございます！平成27年度4次隊でベナンに派遣中の高木拓希です。みなさん日本の新年・お正月はどうお過ごしでしたか？

こちらコドワリ村では、新年のその瞬間もいつもと変わらない様子で過ぎていったため、今でも年が明けた感覚がありません。唯一あった新年らしいイベントといえば、そうですね……爆竹が2、3回鳴ったのが聞こえたぐらいですかね。

そんなこんなで、第4回目となる今回は、コドワリ村(Kodowari)のお祭り・イベントを紹介します！



ベナンでよくみかけるガソリン量り売り屋台(写真左)タクシーは屋根に荷物を載せ1台に9～11人乗り込みます(写真中央)三輪バイク「KEWESEKI」(写真右)

## 【コドワリ最大行事:ラマダーン】

コドワリ村民はほぼ全員イスラム教徒。

そのため毎年1回決まって行われるラマダーンでは、大人も子どもも皆、一カ月のあいだ絶食を行います。断食はイスラム教徒が行うべきとされる5つの大切な宗教的行為のひとつで、ラマダーンがやってくると世界中のムスリムたちは日の出から日没までの間一切の飲食を控え生活をします。



コドワリ村でも、このラマダーンの間は、メインストリート上に並ぶ屋台が営業をやめ商店が食べ物を表に出さなくなります。僕も任地配属後すぐにあったこのラマダーンの行事では、**村の人たちと一緒に絶食に挑戦**してみました（普段から自炊をせず屋台での外食や村人からのお裾分けで生きているので必然的に絶食せざるを得ない状況だったというのもありまして……）。日中何も飲み食いできないというのはなかなか**過酷な経験**でした。ただ、「自分も絶食（仏語で**カーレン=Careme**）しているよ」と言うと、村の人たちが皆とても嬉しそうな反応を示してくれるのが印象的でした。

さてさて、この辛くも神聖な絶食月が明けると、人々は盛大なお祝いの準備をします。コドワリ村では、絶食月が明けた翌日と、そのおよそ一か月後の合計2回のお祭りがあります。後者は、イスラムの言葉で「**タバスキ(犠牲祭)**」といい、やはり全世界のムスリムにとってもお祝いする日となっているよ

うです。朝にはイスラムの礼拝服に身を包んだ人々が学校のサッカーコートに集まり、お祈りを捧げます。その後、村の女性たちは料理の準備をはじめます。ラマダーン中に村内に山ほどうろついていた山羊や羊、鶏、牛たちは、このお祝いの日に男性たちの手によって屠られ人々のお腹にはいります。各家庭で捌かれたお肉は、隣近所にお裾分けするのが習わしのように、わが家にもそうして集まった肉のぶつ切りが十数キロも溜まりました。**お肉の調理法は唯一、油で揚げる**のみ。怒涛の揚げ物続きで見事に僕はお腹を壊しました。



一番のお洒落をしてお祭りに集まる村人たち(写真左)「イマーム=礼拝指導者」の就任式、大量のベビーパウダーを振りかけお祝い(写真右)

## 【賑やかな結婚式】

コドワリの代表的なお祭りといえば、やはりなんといっても**結婚式**です。

一カ月に二回はやっている気がする結婚式のお祭りはなんとも賑やか。現代・伝統的な音楽が入り混じった賑やかなBGMをバックに歌やダンスや太鼓の演奏が繰り広げられ、新たに夫婦となった男女を皆で盛大にお祝いします。そしてダンスをしている人たちの**おでこに大量の飴玉を押し付ける**というのがなんとも独特なやり方、お金持ちの人は飴玉の代わりに硬貨やお札を使います。人々の足元に落ちた飴玉やお金は、村の子どもたちが競って回収します。

僕もダンスに参加してみました。ベナンのダンスは腰やお尻を振るようななかなか激しい踊りで運動音痴の僕がついていくのはなかなか厳しい……と思っている脇では、2、3歳ぐらいの小さな子が上手にお尻を振って踊っています。ベナンの人々は皆

ダンスが大好きで、子どものころからこうして常に踊ってきているので誰もが立派なダンサーなのです。カラオケ文化に育てられた日本人の僕はどちらかといえば踊ることより歌うことの方が好きなのですが、楽しい雰囲気の中やってみれば何でも愉快地感じられるものですね。



綺麗におめかしした新婦(写真左)と結婚式の運営委員会のみなさん、おつかれさまです(写真右)

## 【まだまだ、いろいろ、お祭り騒ぎ】

僕がベナンに配属になって早くも一年が経とうとしています。

しかし、それでも、まだまだ体験したことのない行事、謎のお祭りの数々でいっぱいベナン。二年目は一つたりとも逃さずに参加したいと思っていますところ。

以下は詳細が謎だったり、全てを体験しつくせなかったお祭りの紹介です。



一つ目の写真は、年が明けて数日経ったある日、コドワリ村で行われたいかにも伝統的なお祭りの様子です。現地の人曰く「**牛叩き祭**」というそうですが詳細が不明でした。その日いつものように水汲みをしていると村の人に「**叩き祭り(La Fete de Frapper)**には行くのか？」や「今日の**牛祭り(La Fete de Boeuf)**は見ないの？」等と声を掛けられました。話の内容から察するに、牛を叩くお祭りなのかな、と思い賑やかな太鼓の音が鳴る学校の広場まで行くと、そこでは**人と人々が棒で互いを叩きあっていました**。しばらく見ていると、どうやらチームに分かれているようで、コドワリのアニ族の人々と隣村の**コトコリ族**が来ているようでした。オープニングイベントとして上半身裸の12歳ぐらいの男の子たちが、互いに木の棒で(本気で)叩きあうという何とも衝撃的な光景を目にした後、チーム戦のような試合では一転して愉快的雰囲気の中、男性たちが胸に詰め物をしたりかつらをかぶったりして女性の格好をし棒で叩きあっていました。

二枚目の写真は隣村のペネスルというところで行われた**アニ族最大のお祭り**(だそうです)の様子。一帯の各町村のアニ族とその王様たちが一挙に集い、各々自慢の歌やダンスを披露しました。普段は優しいお爺ちゃんといった印象のわれらが**コドワリ村の王様**も、その日はアフガンストールをまいた豪華な装いにきめたサングラス、お洒落なパラソルを差して登場しました。一方で、アニの最大都市である**バシラ市**の王様は車二台とお付きの人を何人も従えた流石の貫禄を見せつけていました。アニ語が分かったらもっと楽しいんだろうなと見ていてつくづく感じた賑やかなお祭りでした。



## 【次回について】

次回の内容は未定です。

できれば隊員活動の内容について少し触れたいと思っていますので、お楽しみに！！

更新日はおよそ2カ月後となります。

ご意見・ご質問等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。

[mailaddress0323\(アットマーク\)gmail.com](mailto:mailaddress0323@mark@gmail.com)



水浴びを覗くアヒルの夫婦